

## 日本学習社会学会第 11 回大会の開催にあたって

日本学習社会学会第 11 回大会

大会実行委員長

岩崎正吾（早稲田大学）

会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、日本学習社会学会第 11 回大会を、9 月 6 日（土）と 9 月 7 日（日）の両日にわたり、早稲田大学の早稲田キャンパス（会場 14 号館）にて開催させて頂くことになりました。僭越ながら、早稲田大学を代表して厚く御礼申し上げますとともに、会員の皆様の多数のご参加を期待する次第です。

会場となります早稲田大学は、大隈重信が政変で下野した後に設立した 1882 年（明治 15 年）の東京専門学校の設定を前身とし、2014 年現在、10 の学術院のもと、14 の学部と 23 の大学院研究科を擁する総合大学として発展しています。とりわけ、教育学部は 1949 年に創設され、教育学研究科は、1990 年に修士課程を、1995 年に博士課程後期を開設した若い教育・研究機関ですが、その前身は 1903 年創設の高等師範部にあり、百年以上の教員養成の歴史を有しています。こうした歴史を持つ早稲田大学において、全国から日本学習社会学会の会員の皆様をお迎えすることができることを大変光栄に思います。

今大会は、「多文化社会における生涯学習システム構築の課題」というテーマで、オーストラリアとロシアの先住民族研究者を交えた公開シンポジウムが計画されています。また、課題研究（Ⅰ）では、国際比較の観点から「子どもの貧困問題と教育」についての研究報告があり、課題研究（Ⅱ）では、「学習社会におけるアクティブ・ラーニングの可能性」に関する極めてアップトゥデートな報告が予定されています。自由研究発表も 20 件（うち共同研究 2 件）の大台に乗り、会員の皆様の旺盛な研究意欲に圧倒されるとともに、活発な議論が展開されるものと期待しているところです。

なお、懇親会では、クルグズ共和国の伝統的民族楽器コムズやテミルコムズ（口琴）の著名な演奏家、ウメトバエワ・カリマンさんを交えての民族音楽の夕べも企画されています。研究の深化に加えて、研究者間の親睦・交流にとっても有意義な大会となることを祈念しています。

## 日本学習社会学会 第11回大会

1. 大会日程 2014年9月6日(土)～7日(日)

2. 会場 早稲田大学

早稲田キャンパス 14号館 4階 (〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1)

※ 懇親会場：25号館 早稲田大学生協大隈ガーデンハウス

3. 参加費 (1) 学生：1000円 / 一般：2000円 (2) 懇親会費 4,000円

※非会員の方も、参加費をお支払いの上で、臨時会員としてご参加いただけます。なお、公開シンポジウムにつきましては、無料にてご入場いただけます。

4. 大会スケジュール

9月6日(土)のスケジュール

10:30 ～	11:00～ 12:30	13:00～14:30		14:40～ 15:40		15:50～ 18:20		18:30～
受付	理事会  14号館 805室	自由研究発表Ⅰ (14号館 404室)	休 憩	総会 14号館 401室	休 憩	公開シ ンポジ ウム  14号館 401室	移 動	懇親会 25号館 早稲田大学 生協大隈ガ ーデンハウ ス
		自由研究発表Ⅱ (14号館 405室)						
		自由研究発表Ⅲ (14号館 407室)						

9月7日(日)のスケジュール

9:00～	9:30～12:30	12:30	13:30～16:00
受付	課題研究発表Ⅰ (14号館 402室)	昼食	自由研究発表Ⅳ (14号館 404室)
	課題研究発表Ⅱ (14号館 403室)		自由研究発表Ⅴ (14号館 405室)
			自由研究発表Ⅵ (14号館 407室)

5. 会員控室：14号館 408室

6. 大会本部：14号館 409室

7. ご昼食について

昼食お弁当のご予約のない方には、お弁当のご用意はできませんので、あらかじめご了承ください（弁当代 800円程度）。なお、学外徒歩5～10分にコンビニエンスストア等がございますが、事前にご持参ください。

8. ご宿泊

「早稲田」「高田馬場」駅近辺の下記ホテルなどが主な宿泊施設となります。下表等をご参照の上、各自でご手配いただきますようお願い申し上げます。

ホテル名	TEL	アクセス
ホテル椿山荘東京	03-3943-2222	「早稲田」駅3a出口徒歩15分
リーガロイヤルホテル東京	03-5285-1121	「早稲田」駅3a出口徒歩10分
ホテルサンルート高田馬場	03-3232-0101	「高田馬場」駅早稲田口徒歩2分

※なお、「新宿」駅近辺には宿泊施設が沢山ありますので、各自でご手配ください。

9. 発表 (1) 発表時間 個人研究発表 発表20分・質疑5分

共同研究発表 発表30分・質疑10分

※共同研究発表の口頭発表者が1名の場合、個人研究発表と同様の時間とします。

(2) 発表機材 パソコン (windows)・プロジェクター・接続用ケーブルの使用が可能です。

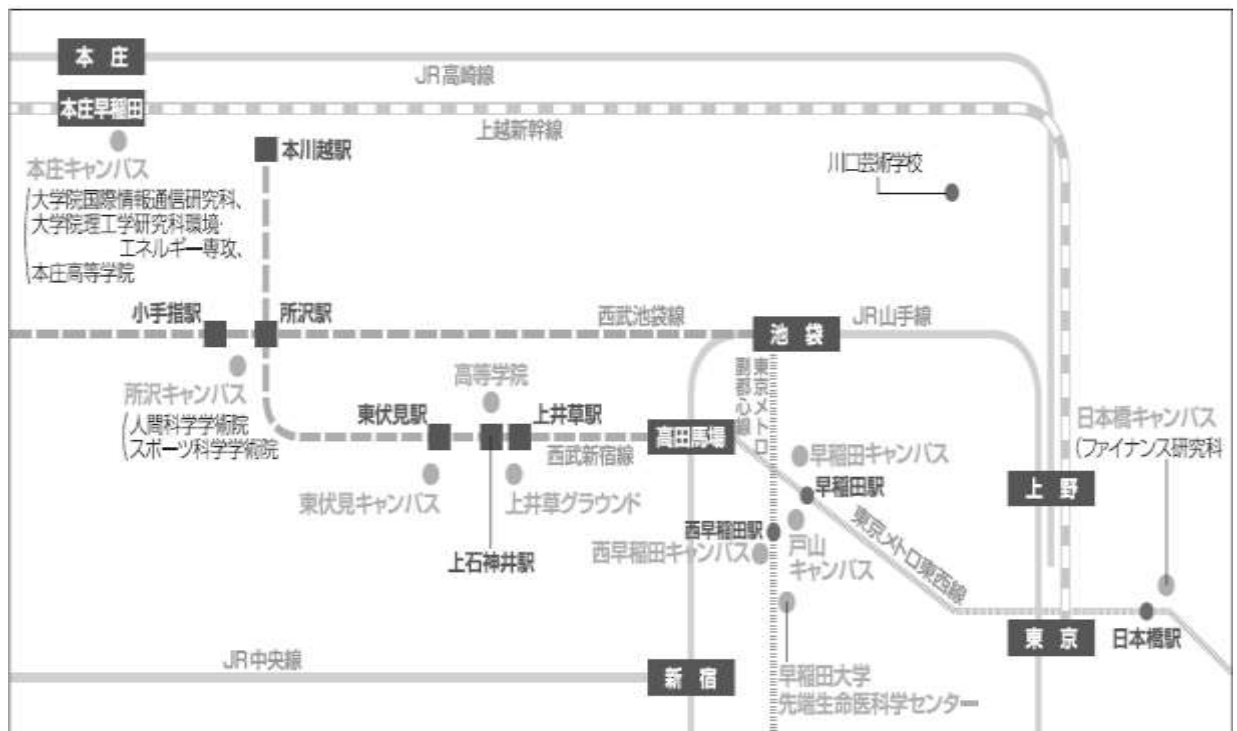
(3) 発表資格 本学会員を発表資格者とします。共同研究者にも同様の資格が求められます。

10. 【第11回大会実行委員会事務局】

E-mail アドレス：learningsociety2014@yahoo.co.jp

実行委員会委員長	岩崎 正吾 (早稲田大学)
実行委員会事務局長	呉 世蓮 (早稲田大学 (非))
実行委員会事務局次長	西村 芳彦 (早稲田大学大学院)
実行委員会事務局次長	高 雅潔 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	井谷 泰彦 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	大谷 杏 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	宮崎 敦子 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	蘇 佩怡 (早稲田大学 (非))
実行委員会委員	張 鵬 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	李 瀟 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	若園 雄志郎 (宇都宮大学)

- 交通アクセス：最寄り駅は地下鉄東西線「早稲田」駅 改札口から徒歩10分です。



早稲田大学HP ([http://www.waseda.jp/common/images/campus/waseda\\_tokyo1.png](http://www.waseda.jp/common/images/campus/waseda_tokyo1.png)) より

**【バスをご利用の場合】**

- ◎ JR 山手線 / 西武新宿線高田馬場駅より早大正門行き（学 02 系統）バス 10 分、「西早稲田」下車徒歩 3 分です。
- ◎ JR 山手線 / 西武新宿線高田馬場駅より九段下行き（飯 64 系統） / 上野公園行き（上 69 系統）バス 12 分、「甘泉園公園前」下車徒歩 3 分です。

**【地下鉄をご利用の場合】**

- ◎ 東京メトロ東西線早稲田駅 3b 番出口 / 2 番出口より徒歩 10 分です。
- ◎ 東京メトロ副都心線西早稲田駅 1 番出口より徒歩 15 分です。

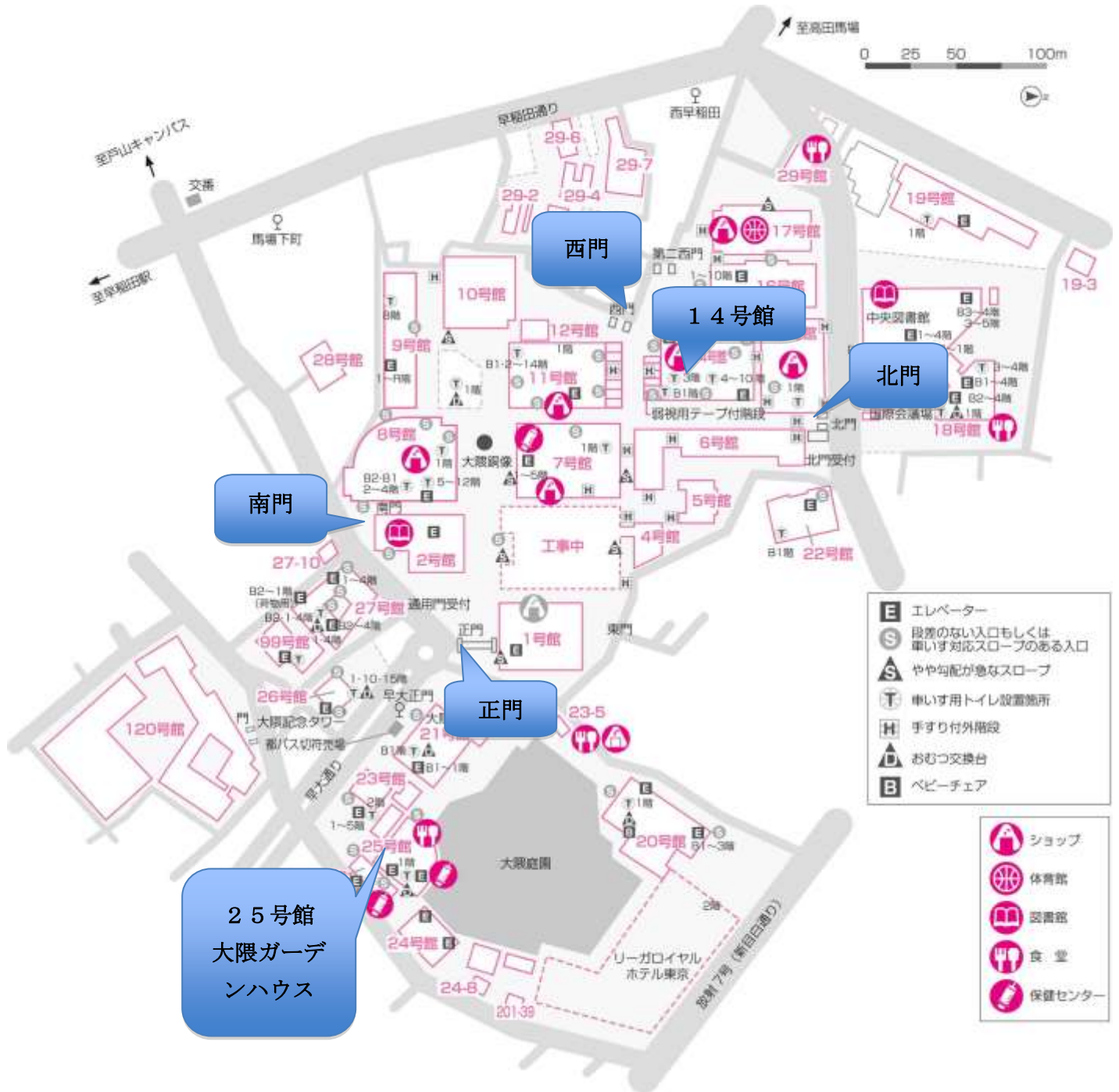
**【路面電車をご利用の場合】**

- ◎ 都電荒川線早稲田駅より徒歩 5 分です。

● キャンパス案内図

会場：早稲田大学 14号館 4階

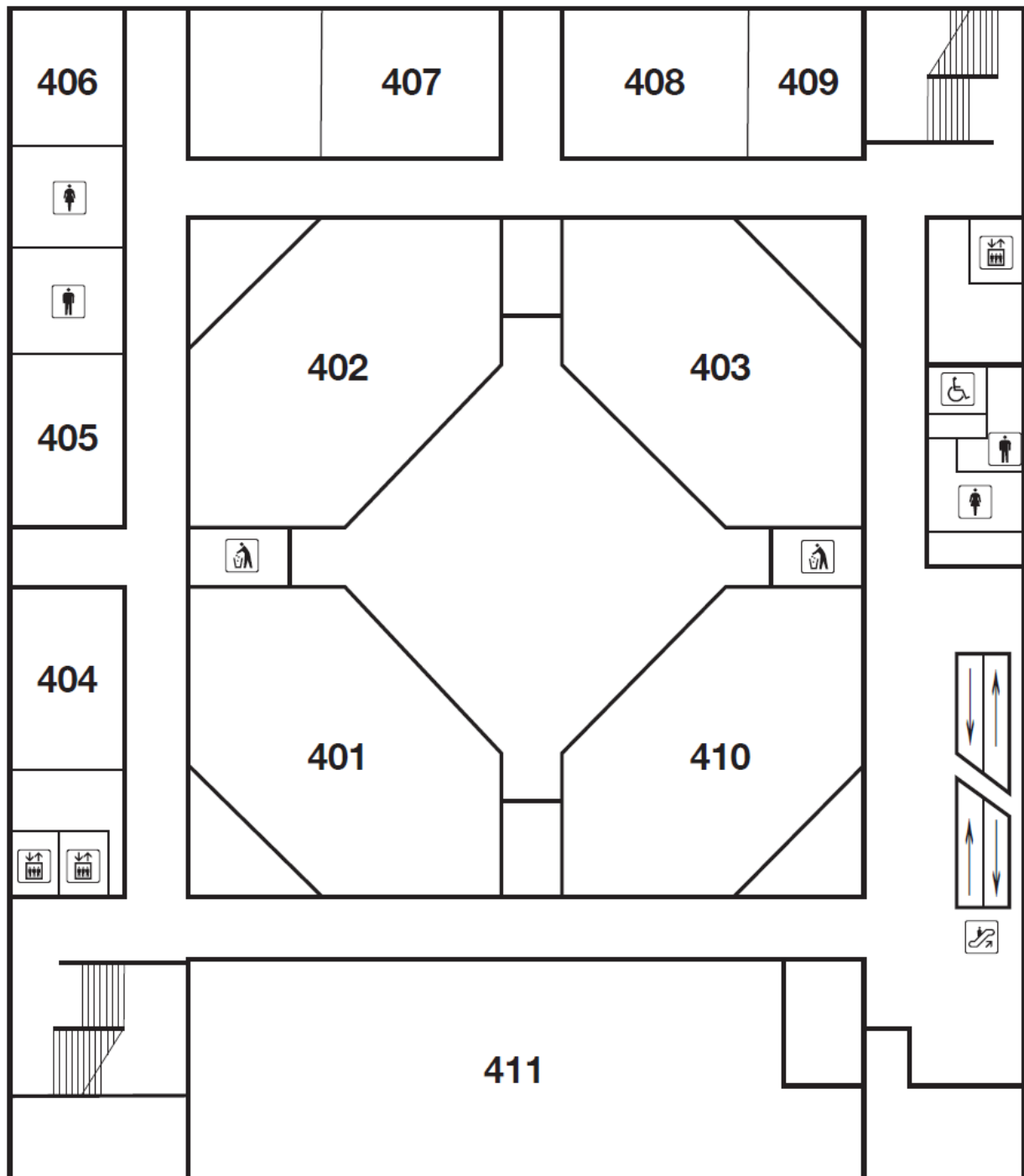
懇親会場：25号館 早稲田大学生協大隈ガーデンハウス



早稲田大学 HP (<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>)より

● 会場：早稲田大学 14 号館 4 階

※入口は、1F になりますのでエスカレーターをご利用ください。



# 自由研究発表 I

14号館 404室(4階)

9月6日(土) 13:00~14:30

司会 新井 郁男(星槎大学) 高橋 興(青森中央学院大学)

13:00~13:25

コミュニティ・デザインの視点から文化遺産を核に地域と学校の連携を図る研究

長谷川 ひとみ(星槎大学(非常勤))

13:25~14:05

学校支援地域本部事業における地域コーディネーターの協働関係と力量形成  
-地域コーディネーター間の相互関係に着目して-

西村 吉弘(国立教育政策研究所)

西村 彩恵(白鷗大学(非常勤))

14:05~14:30

全体討議

## 自由研究発表Ⅱ

14号館 405室(4階)

9月6日(土) 13:00～14:30

司会 貝ノ瀬 滋(東京都三鷹市教育委員会) 入澤 充(国士舘大学)

13:00～13:25

学校・家庭・地域の連携と地域創造型の教育  
-うらほろスタイルの実践事例から-

安井 智恵(岐阜女子大学)

13:25～13:50

住民の教育参加を促す行政の役割  
-北海道砂川市を事例として-

大畑 明美(北海道大学大学院)

13:50～14:15

武蔵野市における市民活動促進と社会教育

田中 雅文(日本女子大学)

14:15～14:30

全体討議



## 自由研究発表Ⅲ

14号館407室(4階)

9月6日(土) 13:00～14:30

司会 望月 國男(東海大学) 堀井 啓幸(常葉大学)

13:00～13:25

教育困難高校における「学び」のあり方と支援策

山田 朋子(女子美術大学短期大学部)

13:25～13:50

演じることでフィールドへの理解を深めるふり返し手法の開発

-社会貢献とアクティブ・ラーニングの間で-

石野 由香里(早稲田大学)

13:50～14:15

放課後子ども教室の多様性と課題

-特別区、政令指定都市、中核市、特例市その他の市町村について-

西村 芳彦(早稲田大学大学院)

14:15～14:30

全体討議

## 公開シンポジウム

14号館 401室(4階)

9月6日(土) 15:50~18:20

### 多文化社会における生涯学習システム構築の課題 ～先住民族の教育権保障をめぐる～

多文化・多民族化が進行しつつある現代社会において、民族や国籍の相違だけでなく、文化、言語、宗教、ジェンダー、障がい、階層及び出自などにより差別されない共生社会の実現をめざして研究と実践の深化をはかることは、学習社会にとってきわめて重要な課題となっている。日本学習社会学会の設立趣旨は、当学会における研究の重要な方向性が「自律（自立）的な人間であることを志向しつつ、同時に共生を人間の行動原理とした社会を構築することである」（『日本学習社会学会年報』第1号、2005年、94頁）と指摘して、グローバル化が進行する国際社会において、共生型社会の実現を阻んできた要因として、環境、食料、民族、宗教、貧困、戦争及び格差などを挙げ、地域と関わるこれらの諸問題を解決するための学習の形とあり方を探求することを強く求めている。

以上の課題と問題意識を踏まえて、公開シンポジウムでは、共生型社会の実現に不可欠であるにも拘わらず、日本だけでなく国際的にも等閑視されがちであった先住民族の教育権保障の問題に照明を当て、テーマとして取り上げることにした。2007年の「先住民族の権利に関する国連宣言」以降、徐々に先住民族問題への関心は増大しつつあるとはいえ、日本では未だ推して然るべき状況にあり、問題の根の深さを物語っている。というのも、1997年のアイヌ文化振興法はきわめて不十分なものとどまっておき、国連宣言に触発される形で、アイヌを先住民族として認めた2008年の国会決議も多くの問題を先送りしているからである。先住民族の教育権保障、とりわけ、独自の言語で学習する権利、先住民族学校やクラスの開設、先住民族カリキュラムの制定、バイリンガル教育の実施など、世界の多民族・多言語国家などから学ぶべき多くの課題が残されている。

本公開シンポジウムでは、オーストラリアとロシア連邦を事例に取り、学校と地域コミュニティとの連携に焦点を当て、先住民族をめぐる教育権保障を生涯学習システム構築の中に探ることにした。

【司会】

桑原 清（北海道教育大学）

【報告者】

1. アボリジニ・コミュニティの担い手養成の現状と課題

～日本の政策動向をふまえて～

前田 耕司（早稲田大学）

2. 西オーストラリアにおけるアボリジニ教育政策と学校・コミュニティの異文化間連携

～生涯学習の課題～

パトリシア・コニグスバーグ（西オーストラリア州教育省附属教育研究所）

3. ロシア連邦の先住少数民族政策と教育権保障

～言語権からみた現状克服の課題～

岩崎 正吾（早稲田大学）

4. ロシア北方先住少数民族コミュニティと学校との連携について

ヴラジーミル・A・ミーノフ（クラスノヤルスク地方教員資格向上研究所）

※ 公開シンポジウムは、会員以外の方々でも無料で参加できます。

## 課題研究発表 I

14号館 402室(4階)

9月7日(日) 9:30~12:30

### テーマ 子どもの貧困問題と教育 ～国際比較の観点から～

昨年6月日本において「子どもの貧困対策法」が成立し、ようやく社会から問題視されるようになった。実際には日本の子どもの貧困率は先進国の中でも高い。政策的に見ても課題が多く成果をあげているとはとてもいえない。海外においても同様である。子どもの貧困とはどんな状態か、それをつきつめると教育の格差が貧困の連鎖を生んでいるという指摘もある。

本課題研究では、地方の取り組みやマイノリティ研究の観点、海外の事例に注目しながら、課題の具体化をめざしたい。

【コーディネーター】 出相 泰裕 (大阪教育大学)

#### 【報告者】

報告1：子どもの貧困と対抗戦略

～日中の比較から～

新保 敦子 (早稲田大学)

報告2：基礎自治体における子どもの貧困対策に関する研究

～荒川区のケース分析から～

川原 健太郎 (早稲田大学)

報告3：貧困が教育にもたらす世代間連鎖

～アイヌ民族のインフェリオリティの克服に向けて～

上野 昌之 (首都大学東京(非常勤))

## 課題研究発表Ⅱ

14号館 403室(4階)

9月7日(日) 9:30~12:30

### テーマ 学習社会におけるアクティブ・ラーニングの可能性

OECD（経済協力開発機構）では、2003年に「キー・コンピテンシー」という考え方を打ち出した。それは、特定の専門家のみならず全ての人が、様々な状況下で個人や社会に価値ある結果をもたらすために、「相互作用的に道具を用いる」「自律的に活動する」「異質な集団で交流する」能力を培う必要があることを説いている。今日の社会においては、いかなる環境においても人や道具等の相互作用を踏まえて、個人としてのみならず組織や社会のイノベーションを主体的に図れる人材が求められているからである。

OECDが「キー・コンピテンシー」を発表して以降、日本においては、「学士力」や「社会人基礎力」等が唱えられるようになり、社会人になってからも生涯にわたり学び続けることは勿論、学士課程教育においてはアクティブ・ラーニング（能動的学修）が推進されるようになった。主体的な人材は「受動的な学修経験では育成できない」と考えられるからであり、例えば、2003年6月にまとめられた「教育振興基本計画」には、「学士課程教育においては、学生が主体的に問題を発見し、解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）や双方向の講義、演習、実験等の授業を中心とした教育への質的転換のための取組を促進する」ことが、具体的な方策として挙げられている。そこで本課題研究では、地域や大学におけるアクティブ・ラーニングの取組事例から、職場や地域等の社会で主体的に生きていくための市民力や社会力を培う教育や学習の在り方、また、それを支える支援の在り方について考察し、多様な人々が学びあう学習社会を展望したいと考える。

【コーディネーター】 中村 香（玉川大学）

#### 【報告者】

報告1：地域の市民活動を通したおとなの学び

田中 雅文（日本女子大学）

報告2：ラーニング・コモンズにおけるアクティブ・ラーニング

～宇都宮大学の取り組みから～

若園 雄志郎（宇都宮大学）

報告3：大学と地域との連携によるアクティブ・ラーニング

～社会教育実習の取り組みから～

井口 啓太郎（国立市公民館）

## 自由研究発表Ⅳ

14号館404室(4階)

9月7日(日) 13:30～16:00

司会 川野 佐一郎(早稲田大学(非常勤)) 坂内 夏子(早稲田大学)

13:30～13:55

避難所指定学校における地域社会との連携強化がもたらすもの

林田 由那(早稲田大学大学院)

13:55～14:20

北海道幼児「ことばの教室」の展開過程に関する研究

田中 謙(山梨県立大学)

14:20～14:45

昭和初期の児童文化運動の「地域性」に関する一考察

-口演童話活動を事例として-

松山 鮎子(東京大学)

14:45～15:25

保育・教育専攻の学生における海外ボランティア

-カンボジアの小学校での実践から-

金塚 基(東京未来大学)

田中 真奈美(東京未来大学)

15:25～16:00

全体討議

## 自由研究発表Ⅴ

14号館405室(4階)

9月7日(日) 13:30～16:00

司会 森岡 修一(大妻女子大学) 長島 啓記(早稲田大学)

13:30～13:55

多文化共生社会における還流型移民の子どもたちのキャリア教育の現状と課題  
-静岡県の事例を踏まえて-

星野 洋美 (常葉大学)

13:55～14:20

公立図書館における多言語図書コーナー設置の取り組み  
-フィンランド・ヘルシンキ市立図書館の事例より-

大谷 杏 (早稲田大学大学院)

14:20～14:45

カンボジアにおける初等美術教育普及プロジェクトの成果と課題

鈴木 光男 (東京未来大学)

14:45～15:10

沖縄の社会教育と罰札制度

井谷 泰彦 (早稲田大学大学院)

15:10～16:00

全体討議

## 自由研究発表VI

講義室 14号館 407室(4階)

9月7日(日) 13:30~16:00

司会 亀井 浩明(帝京大学(名誉)) 富士原 雅弘(東海大学)

13:30~13:55

国鉄の教育制度

-主として大学課程について-第2報

長谷川 晴通 (常葉大学大学院)

13:55~14:20

高校教育研究 21

工業高校教育の現状と展望 (2)

永田 進 (日本大学)

14:20~14:45

「能力開発型」教員評価システムにおける資質能力向上と経験との関係

一之瀬 敦幾 (静岡県立浜名高校)

14:45~15:10

教師に必要な研修とは

宮崎 敦子 (早稲田大学大学院)

15:10~16:00

全体討議

【第11回大会実行委員会事務局】

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1  
早稲田大学 教育・総合科学学術院 岩崎正吾研究室  
TEL : 03-5286-1541 (研究室 直通)

日本学習社会学会 第11回大会実行委員会	
実行委員会委員長	岩崎 正吾 (早稲田大学)
実行委員会事務局長	呉 世蓮 (早稲田大学 (非))
実行委員会事務局次長	西村 芳彦 (早稲田大学大学院)
実行委員会事務局次長	高 雅潔 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	井谷 泰彦 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	大谷 杏 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	宮崎 敦子 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	蘇 佩怡 (早稲田大学 (非))
実行委員会委員	張 鵬 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	李 瀟 (早稲田大学大学院)
実行委員会委員	若園 雄志郎 (宇都宮大学)

お問い合わせ

日本学習社会学会 第11回大会実行委員会(事務局長 呉世蓮)

E-mail: [learningsociety2014@yahoo.co.jp](mailto:learningsociety2014@yahoo.co.jp)

※ご不明な点やご希望等ございましたら、ご遠慮なくご相談下さい。